

県産小麦で素麺を～小麦高品質生産の推進～

要約

小麦奨励品種「ふくはるか」は、平成25年から各地で栽培されている。桜井市では三輪そうめんプロジェクトとして原麦タンパク質含量率12～13%を目指している。高タンパク化のための開花期追肥実証を行った結果、原麦タンパク質含有率は出穂10日後の窒素施用量を8kg/10aとすると13.1%となった。

生産安定のための排水対策、雑草防除管理を徹底した結果、管内の平均収量は目標の250kg/10aに対し、97%の243kg/10aとなった。

現状(背景)と課題

桜井市内の生産者や素麺業者から、地元産小麦を用いた素麺加工に期待を寄せているが、県内産小麦は原麦タンパク質含有率が低く、機械一貫工程による素麺加工に耐える小麦の生産に至っていない。

【収量と原麦の実質タンパク質含有率】

H28 収量 217kg/10a

タンパク 9.87%(管内全域)

目標

・収量

217kg/10a

・タンパク質含有率

9.87%

(管内全域)

実績

・収量

243kg/10a

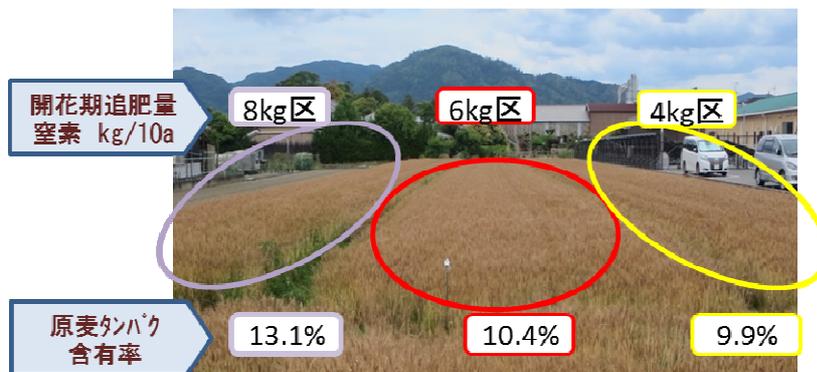
・タンパク質含有率

9.46%

(管内全域)

活動内容

- ・開花期追肥量の違いが原麦タンパク質含有率に及ぼす影響を実証
実証圃の設置と結果



- ・原麦タンパク質含有率は出穂10日後の窒素施用量と正の相関を確認 (p<0.01)
- ・桜井市の農事組合法人アグリ大泉では、H30年産小麦で生育の状況を勘察し、窒素8kg施用を励行
- ・現地巡回や講習会等を実施し、生産安定のための排水対策、雑草防除管理の徹底

成果

- ・管内全域の原麦タンパク質含有率は9.47%と目標とした10%を達成できなかった。
- ・平均収量は、前年の217kg/10aから243kg/10aに増加することができた。



小麦は種



明礬による排水対策



巡回指導

普及活動のポイント

啓発活動により、小麦品質の向上に対する生産者の意識向上に務めた。
 重点地区を設定し、開花期追肥実証を行うことにより、その効果を数値で理解させることができた。
 基本技術の励行を促すことにより、徐々に排水対策や雑草対策は改善されてきた。

対象の変化

- ・H30年産では、開花期追肥に取り組む生産者が増えている。

対象者からのコメント

- ・開花期追肥の効果が明らかになったが、引き続き支援願う。
- ・カラスムギなどの難防除雑草対策への支援を願う

これからの活動ビジョン

- ・研修会等を通じて、排水対策、適期播種、雑草防除、開花期追肥などの指導を引き続き行う。
- ・三輪そうめんプロジェクトに取り組む桜井市では、生育状況に応じた窒素 8kg/10a の開花期追肥を指導。
- ・雑草対策については、栽培状況に応じた対応を行う

活動体制

